

三歳児の指導

村井トミ

いのびのびとした生活をさせたいものである。

まず一年間を三つの学期に分けて大きなめやすを立ててみると、

一学期

①家庭的な雰囲気をつくり安定感をもたせることと、幼稚園の生活をよろこびたのしませること。

今まで家庭という狭い場にいた幼児がはじめて幼稚園という未知の広い場に来たのであるからその変化は大きなものであり、一つ一つが新しく全神経で物を見たり聞いたりするのであろうことが想像される。したがって教師はこの差を少しでも少なくしようと家庭的な雰囲気にしたくと工夫することが必要と思う。幼稚園にある遊具以外にも、家庭で使っているような電車とか自動車、ぬいぐるみの動物などを置いて雰囲気をつくり同時

最近、幼稚園にも三歳児の保育が急激に多くなってきたようである。しかし三歳児という年令をよく考えた上で指導に当たらないと、大げさかもしれないが、むしろ弊害さえあるかもしれない。

いろいろの事情はあろうが、四歳児の中に少数まぎって四歳と同じことをしている場合などは、当然無理なことで劣等感をもつのがせいぜいかもしれない。室が狭いとか人数が少ないとか、いろいろの問題も多いが何とか工夫して三歳なりの保育をしたいものと思う。

さて、三歳児の保育はどういうようにやったらいいか——ということになる。

一口に言えば、幼稚園をたのしませ社会性を養うこと、基本的な生活習慣を身につけること、この二つがねらいと言つてよい。保育内容の健康と社会を三歳では大きくとりあげることになろう。

まず保育者はいかに三歳児というものが幼いかということをよく自覚してかかることが必要であると思う。四歳と五歳の差以上に、四歳と三歳の差は大きい。一応園児となつてみれば、何だか遊ばせてばかりいるような気がして、無意識の中に必要以上におとなに仕立てようとしていないか、ということを折々反省し、その遊びこそ三歳児保育の生命であるというくらいに考えたい。そして三歳らし

に先生のかもしだすやわらかい雰囲気、これらが一しょになって安定感をあたえると思う。そして幼児が幼稚園で遊ぶことをよろこぶようにしたい。

②教師がよく遊んでやる。そしてひとりひとりが十分に遊べるようになること。

教師が明かるく楽しげに幼児と一しょになって遊んであげる。幼児が無意識の中に遊びにひき入れられるように努力すること。ぼんやりと立って人の遊びを見ているのではなく、ひとりひとりが十分にあそべることを目標にしたい。友だち同志の結びつきは、もう少し先の目標としたい。それはちよつと見るとグループができているように見えても、各々勝手に遊んでいて、ただ一か所に集まっているというのの状態で三歳の頃の状態だからである。しかし

このひとりひとりを十分に遊ばせる為には、教師も子どもになつて一しょに泥だらけになつて砂を掘り、汗をかいてかけ廻ったり、電話をかけてまごのお客様になつたり心身共に細かい心づかいが必要であり、単に子どもの相手をして遊ぶというより一歩出なければならぬのである。

③基本的な生活習慣を次第に身につけさせる。

これは年間通じて大切なことであるがすぐには出来なくてもだんだんにしむけたい。手を洗うとか、用便にひとりで行くとか、靴をはくとか、おべんとうや帽子などをきめられた所に置くとか、汗をふくとか、夏なら炎天に出るときは帽子をかぶるとか、いろいろあろうが、つまり自分の身のまわりを自分でするということである。簡単なようであるが今までは親がし

ていたことであろうから、なかなかむずかしい。根気よくほげましたり、ほめたりしながら、子どもの性質により適当に指導したい。

④休息に気をつける。

新しい幼稚園生活で心身共に疲れるので特に注意が必要であり、入園当時はなおさらである。短時間で帰宅させるようにして次第に時間をおぼしていく。幼稚園では横になって休まないまでも、動的と静的の遊びを教師の方でバランスをとってあげなくてはならない。

二期

①友だちの結びつきをはかる。

二期になるとだいたい友だち関係がついてくるから一期のひとりひとりが遊べるということから一歩進んで、子どもたちの日頃の状態をよく観察して、仲よしのグループをつくってやるようにしたい。遊びが中心で出来る場合もあ

るし、帰りの方向が同じために出
来る場合もあるし、教師は何かき
っかけを見つけてやりたい。仲よ
しの友だちができると急にはつら
つとして遊び出す子どもも、よく
ある例である。

②みんなと一しょに行動させる。

時期的にも運動会などの季節であ
るから皆で一しょに遊んだり行動
したりすることが多いのでちょう
どよい機会ともいえる。

③遊具など仲よく順番につかうよう
にさせる。まだまだ自己中心の代表
のような三歳児であるが、仲よく
玩具をつかったり、順番を待てる
ように約束したりして楽しく遊べ
るように皆で努める。

④基本的な生活習慣は一学期にひきつ
づいてする。更に個人々々の指導を
よくする。

⑤体力を十分に養う。

特に気候のよい時であるから戸外

三学期

で十分遊ばせ丈夫な体をつくる。

①小さいグループを次第に大きくし
て、大ぜいでも楽しく遊べるよう
にする。

二、三人の小さいグループが教師
の導入で互に結びあつて、大ぜい
でも遊べるようにしむけていき
たい。

②自律の生活に導くようにする。

基本的習慣をよく身につけさせ
る。自分で出来るということは自
信のつくことであり、はりきって
生活できるのであるから、周囲の
おともも協力して、できることは
何でも自分でさせたい。後かたづ
けなども自分の持物だけでなく一
しょに遊んだ玩具や遊具など皆で
一しょに片付け、きれいにするこ
とに喜びをもつように、ほめたり
励ましたりしながら教師も一しょ
にすることが大切である。

以上健康と社会の面だけを記したが、

他の保育内容もしないわけではない。当
然生活にはいつてくる。しかしあくまで
も遊びをより豊富に楽しくするためのも
のとして登場するといつてよい。

参考までに他の内容四つについて、ど
の程度に考えるかということを簡単にあ
げてみる。

(一) 言語

言語の指導もいろいろの面があるが
童話などのように聞かせることは教師
の工夫によってできるから問題外とす
る。そこで話させることであるが、皆
の集った前で発表するというようなこ
とは期待してない。三歳児のひとり
ひとりが、遊びの間にも、絵をかきな
がらでも、先生や友だちに思ったこと
を十分に話させること、これが一番必
要なことである。話しあいはいひとり対
ひとりを目標としてよいと考える。話
をしない子どもや話の少ない子どもに
は、身近なことを話題にしたり、話す

きつけをつくつてやり、よい話し相手になってやる必要がある。

(二) リズム

さあこれからリズムをしましょうというより、遊んでいる中に音楽を入れてやるという形の方が望ましい。つまり、遊びとリズムが一体になったようなものである。

曲に合わせて気持よく手を動かしたり足を動かしたりする自由表現を十分にさせたい。なお、興味をもってするように、身のまわりの動物や花とか、幼稚園のブランコなどの生活や、遠足とか、幼児の経験を再現するような材料をとりに入れてやると興味をもってする。

(三) 絵画製作

絵について言えば、何の絵かわからないような錯画でも楽しそうに画いている、とか、力強い線でかいたり塗ったりしている、とか、画く回数が多い。これらが一番三歳児としてねらう点であり、決して形になることをあせって

はいけない。いつもほめてやり、一枚でも多く喜んでかかせたい。三歳の時にのびのびと画いていけば、必ず後からのびてくる。

製作でもただ何かを作るのではなく、それを利用して遊べるものの方がよい。例えば、今日は手さげを作りますといって全員集めて一斉につくるというより、先生の周囲の子どもたちが花びらを拾って入れる為に手さげをつくる。つくと喜んで花びらを拾いに行く。これを見て、まだ作っていない子どもが、自分もつくりたいと言ってく。遊びに使えば泥もつくであろうし破けることもあるが、十分たのしんでいるのだから目的は達している。家に持って帰る時はよごれていても親に見栄をはる必要はない。製作の為の製作でなく、遊びと製作が相連なっている。この点教師もよく徹底しないと楽しい希望や思いつきも封じてしまうことがある。

粘土のようなものは三歳児にとって最もよい材料なので、いつでも使えるようにして、自由にさせたいものである。

(四) 自然

世話することは出来ないのに、先生にするのを見ていたり、草花に水をやるとか、鶏に草をつんできたり、金魚に餌をやる程度のこと。

三歳ではこういうことに心を掛けるとか、かわいがるという気持が養われればよいとしたい。

以上大ざっぱであるが、前記の大きな目標のために教師はよく子どもの生活を観察して、三歳なりの工夫が大切であり、教師の創作にまつところが多い。そして、一つ一つの保育内容を切りはなさずに、製作をしている間に言語の指導がおこなわれるとか、人形遊びの中に言語も音楽リズムもおこなわれるというような形をやっていききたい。